【授業研究　7】

中学校第１学年「思いやり」における道徳資料の開発と活用の在り方

下妻市立東部中学校　教諭　小野澤　桂子

1　資料開発にあたって

(1)　題材の選定

いじめの問題が多発し深刻化している現在，道徳の時間においても，思いやりや他の人との関わり方について真剣に考えさせる必要を感じる。生徒に本気になって考えさせるには，生徒の生活現実にかかわる問題場面を含んだ資料が望ましい。そこで，次の三つの条件のもと，生徒が真剣に自己を見つめ，生き方を考えることのできる資料の開発に取り組むことにした。

ア　リアリティーがあること
イ　生徒の興味・関心を引き，発達段階に応じていること
ウ　多様な価値観が引き出され，深く考えさせる内容であること

(2)　素材の収集

生徒の生活現実に即したものということで，次のような面から素材を探した。

・校内の思いやりやいじめに関する出来事
・新聞記事（コラムや投書欄を中心に「身近で受けた小さな親切」的なものは結構あることがわかった。）
・本や雑誌に掲載された身近な出来事
・生徒作文
・グループ日誌や生活日記・学級日誌

取材の時期にちょうど「人権作文」の募集があり，応募した３年生の作文の中に１年生の時にいじめられた経験を綴ったものが２点あった。どちらも表現は稚拙ながらいじめられた事実とつらかった心情はよく伝わってくるものだった。また，あげられたいじめの事実の一つ一つが生徒の身近で起こりうる出来事ばかりであったので，共感を伴って理解するであろうと考えられた。そこで，この作文を資料化することにした。

(3)　文章化

[第１段階]

ア　ねらいとする価値を明確にする。　　２－（２）思いやり
イ　生徒作文に沿ってあらすじを考える。
ウ　文章化する。（起承転結のある文とする。いじめの事実はそのまま書く。）
エ　題は「ひとことの勇気」とする。

《検討》・　いじめの事実そのままでは暗過ぎる。
　　・　生徒自身あるいは周りにいる生徒たちが解決に向かって行動するという形の方が前向きでよい。

[第２段階]

オ　ねらいとする価値について深く考えさせられる場面で葛藤場面を設け，その後，解決に向かって本人が動き出し，周囲の友達も協力する形に修正する。
カ　内容に合わせて題を「これでいいのか」に改題

《検討》・　生徒作文を改作したので，話の流れとして不自然なところがないか検討する。
　　・　文章表現の細部を修正
　　・　題「これでいいのか」はねらいとする価値からずれた印象を受けるとの指摘で「私はこれでいいのか」に改題

[最終段階]

キ　場面絵を入れて完成。

2 授業の実践

(1) 資料の分析表

学年	1学年	主題名	温かい心 2－(2)	資料名	私はこれでいいのか	出典	生徒作文（自作資料）
ねらい	思いやりのない人間関係の中に置かれた時，どうすれば人との温かいつながりを育てられるか考えることができる。			事前指導の工夫	生徒が書いた「人権作文」の中から，いじめに関するものを取り上げ，国語の時間等で読み聞かせ，感想を話し合っておく。		
評価の工夫	・資料提示後の初発の感想と授業後の感想を比べ変容をみる。 ・資料の問題場面について，よりよい解決法を考えることができるかをみる。			事後指導の工夫	学校生活の中で人間関係がうまくいかず困った場面，よく考えずに行動した場面などで様々に思考することを教え判断力を育てていく。		
補助資料等	〔導入〕	〔展開〕 ワークシート　場面絵		〔終末〕 ワークシート　ネームカード			

話のすじ（資料に含まれる価値）	ねらいに迫る人物の言動と心の動き：中心人物の言動と心の動き	ねらいに迫る人物の言動と心の動き：関連人物の言動と心の動き	○ 基本発問 ◎中心発問	予想される反応
			・初めの感想を書こう。	・かわいそうだな。
1 小学校の時，いじめる立場にいた。 （思いやり　2－(2)）	・その子のつらさが痛いほどわかる時が自分にもめぐってくるなんて。		・主人公は誰でしたか。 ○どんなことがありましたか。 （事実の確認）	・「わたし」
2 中学校に入り，いじめられる側になる。 ・入学式の次の日 （思いやり　2－(2)） （公正・公平 4－(3)）	・いじめがありそうないやな予感。気にしないようにしよう。	・私を避けるように席る。 ・机も離す。 ・私をチラチラ見ながら何か言う。 ・他の男子まで私を避ける		・わたしがいじめられた。 ・隣の男子が避ける。 ・机も離す。 ・私を見ながら何か言う。 ・他の男子まで私を避けるようになる。
・給食	・男子には絶対配膳してやるものか。	・汚そうに私から離れる。 ・私が配膳したら泣き出した。		・汚そうに離れる。 ・私から給食をもらった男子が泣き出す
・掃除		・机を運ぶと露骨にいやな顔。 ・他の男子も「あっ きたねえ。」		・掃除で机を運ぶと「きたねえ」という。
・数学の時間	・みじめで涙がにじんだ。泣くまいと我慢した。 ・泣いたらよけい笑われる。	・消しゴムを投げてきた。 ・女子までが一緒になってげらげら笑った。		・授業中に消しゴムを投げてくる。女子まで一緒になって笑う。
・自転車の鍵をかけられる。	・鍵が落ちてないかと必死で探した。 ・いじめている男子がやったのかも。よけいやられるから何も言うまい。			・自転車の鍵をかけられる。 ・グループ練習で誰もとなりに席ってくれない。
・グループ学習	・その度にみじめ。	・誰もとなりに席ってくれない。		・学校を休む。
・家に帰って	・明日学校だと思うと気持ちが暗くなる。 ・あのクラスはいやだ。もう学校に行きたくない。 ・学校を休む。 体の具合が悪くないのに休んでいるのはいやだった。 ・来なければよかった。 ・死んでしまえば誰にも何も言われない。 父や母を悲しませると思うとできなかった。 ・あの人もこんなに我慢していたんだな。ひどいことをした。	・休んでもクラスは変わっていない。		・休んでもクラスは変わっていない。 ・死んでしまいたい。 ・家で何回も泣く。 ・小学校の時いじめた人のつらさがわかる ・いつも我慢していた。 ・「これでいいのかな。」と思った。
・市内大会の給食の時間 （自主・自律　1－(3)）	・心穏やか。 いつもこんなだったらいいなあ。 ・私っていつも我慢しているけどこれでいいのかな ・話せば分かってくれる人がいるかもしれないな。	・いじめの中心になっている男子がいない。		
―（資料は前半で切る）				・友達に相談する。
3 数日後 （信頼・友情　2－(3)） （思いやり　2－(2)）	・友達に相談する。	・「ごめんね。知ってたのに何もしてあげられなくて。」 ・「今の気持ちを作文に書いて，みんなに話したら。」 ・「先生にも相談しよう。」	◎「これでいいのかな。」と思った主人公には，どんな解決法があるでしょう。「わたし」になったつもりで，できるだけたくさん考えてみよう。	・先生に相談する。 ・両親に相談する。 ・兄弟に相談する。 ・登校を拒否する。 ・転校する。 ・クラス替えまで待つ。 ‥‥など。
・学級会の時間	・友達と先生に相談する。	・先生は学級会で時間をとってくれる。		
・ながい1年が終わる （思いやり　2－(2)） （公正・公平 4－(3)）	・自分の気持ちを書いた作文を読む。	・クラスの空気が温かくなる。	○考えた解決法を発表し問題点を話し合おう。 ○いちばん良いと思った方法を一つ選び，選んだ理由を書いてみよう。 ○選んだ方法を発表しよう。	・先生には話しづらい。 ・親に話すと騒ぎが大きくなる。 ・転校してもまたいじめられる。 ・クラス替えまで我慢するのはかわいそう。

(2) 指導案
展開

主な活動と発問	予想される生徒の反応	支援・留意事項・評価
1　資料の前半を読み，話し合う。		・資料は生徒が自由に考えられるよう，前半の「私」が「これでいいのか」と思うまでを読む。
o　資料を読んで，わかったことはどんなことでしょう。	・「私」がいじめられた。 ・避ける・机を離す ・給食で汚そうにする ・掃除で「きたねえ。」 ・授業中に消しゴムを投げてくる ・自転車の鍵をかけられる ・グループ練習で仲間はずれ ・学校に行きたくない。 ・学校を休む。 ・家で何回も泣いた。 ・死のうと思った。 ・あの人にひどいことをしたと後悔する。 ・「これでいいのか」と考える。	・資料からわかる事実を確認する。 ・主人公の置かれた状況を正しくとらえたうえで判断するよう支援する。 ・事実をおさえながら，私の心情を共感的に理解させる。 ・ずっと何も言わずに我慢していた「私」が「これでいいのか」と気づいたことを確実にとらえさせる。
◎　私はどうするのが良いだろう。できるだけたくさんの方法を考えてみよう。	・友達に今までのことを全部話して，相談に乗ってもらう。 ・先生に相談する。 ・両親に話す。 ・兄弟がいたら相談する。 ・自分のいやな気持ちを相手にはっきり言う。 ‥‥など	・各自考えてワークシートに書かせる。 ・考えたことを発表させ，多様な考えに気づかせる。 評　様々な解決法を考えることができたか。（ワークシートから）
o　考えた解決法を発表して検討しよう。	・先生には話しづらい。 ・親に話すと大騒ぎしてかえっていじめられる。 ・家の人には詳しく聞かれるからいやだ。 ‥‥など	・発表の後，それぞれの解決策について問題点はないか小集団で話し合わせる。 ・話し合ったことを発表させ全体で討議する。
o　いちばん良いと思った方法を一つ選び，選んだ理由を書いてみよう。		・最終的な判断を理由づけしてワークシートに書かせることにより，自己決定を促す。 ・ネームカードを使って各自の判断を発表させる。 評　多様な解決法の中から，自分なりの判断をすることができたか。（ワークシート，話し合いから）
2「学習を終えて」を書く。	・いろいろな考えがある。 ・よい方法を考えられた。	・学習の感想を書かせる。

(3)　授業分析

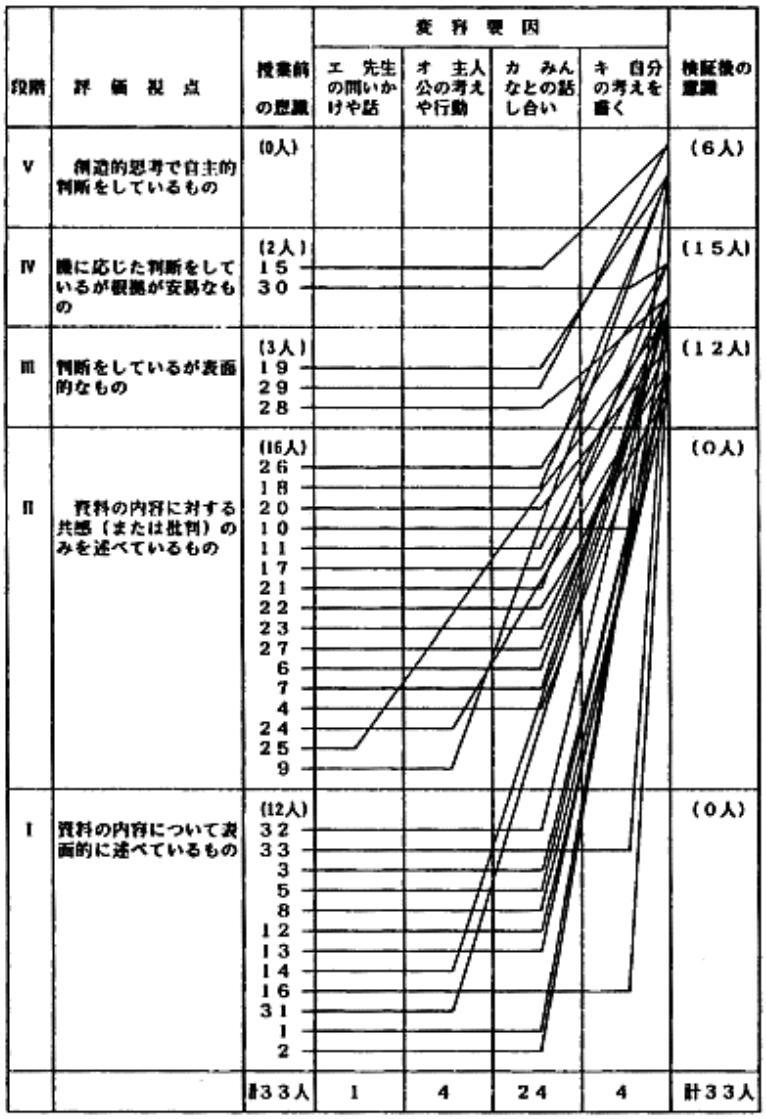
ア　感想内容の比較とアンケート調査

○　問題場面について判断を問う授業の展開であったので，全員がレベルⅢ以上に変容している。

　しかし，感想を見ると判断の理由付けが曖昧で現実では無理と思われるものが見られた。観念的でなく，現実に即した判断をさせたい。

○　変容とその要因は「みんなとの話し合い」によるものが24人(70%)と圧倒的であった。友達の考えを聞きながら，自己を見つめ，様々に思考した結果ととらえられよう。主体的な判断力とは，他の考えを聞きながら自分をふり返り，よりよいものを選択していく力ととらえているので，良い鍛えの場にもなったと考える。

（解決法としては，友人先生・親・相談窓口の順で相談するが23人(70%)と最も多かった。）



（「授業前の意識」の数字1～33は生徒を示すが，出席番号ではない。）

図1　授業前・授業後における道徳意識の変容とその要因

（授業前 平8.10.23.　授業後 平8.10.23.　実施　1年1組　33人）

イ　生徒の自己評価から見る変容

　授業前と授業後に，ねらいとする価値に関して資料に近い場面を設定し，次のようなアンケートを行って意識の変容を調べた。

資料1

授業前・授業後の意識調査

Q1　あなたのクラスでいじめがあった時，あなたならどうしますか。

　1　知らないふりをしてしまう。

　2　知らないふりをすることが多い。

　3　相談されたら相談にのる。

　4　進んで声をかけ，どうしたら良いか考えてアドバイスする。

Q2　それはなぜですか。

　1　自分には関係ないから。

　2　できたらかかわりたくないから。

　3　かわいそうだから。

　4　何とか力になって，いじめを解決したいと思うから。

アンケートの結果をまとめると次のようになった。

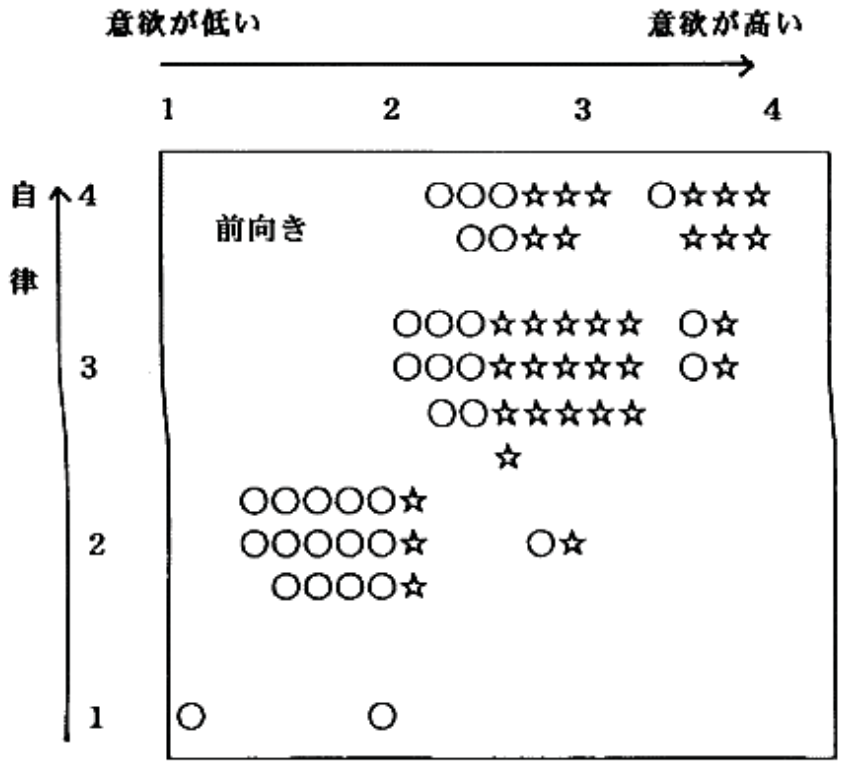


図２　「思いやり」に関する学級全体の変容
（平 8.10.23 実施 1年1組 33人）

○印－事前調査結果
☆印－事後調査結果
いずれも一つが一人を示す

事後調査の☆印が全体に右上に動いており，実践意欲の高まりと他律から自律への変容がとらえられる。

レベル２・２以下の傍観者的立場の者が，授業前16人(48%)と約半数を占めていたのに，３人(9%)に減ったのは，授業によって関心をもち，自己をふり返って前向きに考えることができた成果といえる。

レベル３・３が大多数を占めることから，今後の重点化した指導でさらに高まることが期待できよう。

ウ　生徒による資料評価

表１　資料内容に対する生徒の評価

道徳の授業を終えて

これはテストではありません。思ったとおりに書いて下さい。
道徳の授業が終わって，今一番思っているとおりに線を引いて下さい。

資料の内容が

ア	よくわかったので	10
イ	わかりにくかったので	0
ウ	あったので	4
エ	なかったので	0
オ	身近なものだったので	15
カ	身近でなかったので	3
キ	おもしろかったので	0
ク	つまらなかったので	0
ケ	やさしかったので	1
コ	難しかったので	0

ア	やる気がおきた	1
イ	やる気がおきなかった	0
ウ	よく考えられた	14
エ	考えられなかった	4
オ	楽しかった	4
カ	つまらなかった	1
キ	もっと話し合いたい	7
ク	話し合いたくない	0
ケ	ためになった	6
コ	ためにならなかった	0

最も多い結びつきは，「身近なできごとだったのでよく考えられた」であった。この反応は生徒が本気になって考えられる資料を，という自作資料作成の意図にぴったり合ったものと言えよう。

3　成果と課題

(1)　成果

○　生徒にとって身近な素材を資料化したことで，共感をもって理解し，問題場面について自分を見つめながら真剣に考えることができた。自作資料の意義を実感した授業となった

○　授業を生徒の内面の変化に着目して評価するという試みは，難しいとされる道徳の授業の評価の一方法として勉強になった。

(2)　課題

○　授業後の感想には，表面的・観念的なものがまだまだあり，自己を深く見つめる道徳の授業を目ざして，資料を含めた指導法の研究をさらに積み上げていく必要を感じている。

○　授業分析を行ったが，生徒の感想文の分類が難しく迷う場面が多々あった。道徳の時間の評価は，何をどの程度行えばよいのか今後さらに研究していきたい。

【授業研究 8】

中学校第２学年「誠実な行動」における道徳資料の開発と活用の在り方

高萩市立松岡中学校　教諭　矢代　とみ子

1　資料開発にあたって

(1)　題材の選定

中学生の特徴の一つに，「人にどう思われるか」という外面を気にする傾向が見られる。そのため友達付き合いにおいても，傷つけられることを極端に恐れ，お互い馴れ合い的な交友関係を保ち，集団の中に埋もれて，心の葛藤を避けようとする。また，何かを指示され面倒を見られることに慣れてしまっている生活の中で，自分で物事を考え，判断する積極的な姿勢が生まれにくいことなども指摘されている。

本校の生徒にも同じような傾向が見られる。例えば，話し合い活動などの私語も，他に迷惑をかけることと分かっていても広がってしまいがちである。また，周りを気にして自分の意見を発表できない場面も見られる。

そこで，生徒の実態を考慮し，生徒の作文をもとに「誠実な行動」をテーマに資料を作成した。自分たちにとって身近な資料は，意見の交換を活発にし，生徒一人一人が今までの自分の行動を振り返り，見つめなおすことができると考える。

(2)　素材の収集

資料の開発にあたっては，生徒の生活体験から素材を見つけることにした。これは資料を身近に感じ，主人公に共感することのできるもの，つまり主人公に生徒が自我関与することができるものを第一番に考えたからである。次に，内容が分かりやすく，生徒の心に感銘を与え，ねらいとする価値についての多様な価値観を引き出すことのできることも条件として考えた。道徳的問題に直面して，ふんぎりをつけかねている人物の物語を創作し，「もしあなたたちがこの作中人物だったらどうするか。」と問いかけることにより，生徒達の現に持ち合わせているそれぞれの道徳観の違いが間接的に明るみに出てくるものと考える。それらを相互にかみあわせていくことにより，自分はどう考えるか，また，学級の友達がどういうことを言うか，それを参考にして自分の考えを深めることができるのではないだろうか。そして，そこから周りの思惑にとらわれず，自分自身で考え，誠実に行動することがどれだけ大切で必要なことであるか気づいていくのではないかと考えた。

本校では夏休みに地区別奉仕作業を実施している。また，中学校生活における部活動は生徒達にとって大きなウエイトを占めている。この二つを素材に自己を見つめ，自己との対話が豊かにできる資料作成を試みた。

(3)　文章化

資料を前半と後半に分けて作成する。前半で，見たことを話すべきか，話さずに部活動に行くことを取るか道徳的問題に直面し，迷う主人公を設定する。臨場感を出すために，高速道路に向かう危険な場所ということも加え，主人公の迷いを大きくした。後半で，戻ってきた生徒の行動から生徒の心に響くような表現を工夫する。

2　授業の実践

(1)　資料分析表

学年	2学年	主題名	誠実な行動　　1－（3）	資料名	夏の日のサンタクロース	出典	自作資料
ねらい	自分の欲求を押さえ，他人の言動にとらわれることなく，自主的に考え，判断し，誠実に行動に移そうとする態度を育てる。			事前指導の工夫	日常生活の中で，学活，朝・帰りの会などの機会をとらえて，一人一人の理解を深める。		
評価の工夫	第１次の判断，第２次の判断をシートにまとめることにより，生徒の価値観の推移をとらえる			事後指導の工夫	学級のコーナーに生徒の感想を掲示し，意識の高揚を図る。		
補助資料	［導入］夏休みの地区別奉仕作業　　［展開］ ワークシート　場面絵　　［終末］ワークシート						

話のすじ (資料に含まれる価値)	価値に迫る人物の言動と心の動き 中心人物の言動と心の動き	関連人物の言動と心の動き	・基本発問 ◎中心発問	予想される反応
1 夏休みに入って，地区別奉仕作業が実施された。（社会への奉仕）（４－（４））			・暑さの中で奉仕作業をしているとき，圭子はどんなことを考えていただろうか。	暑いな。 早く終わりにしてアトムの世話をして，食事もしたいな。 早く部活に行きたい。 他は終わっているかな。
2 主人公の子も暑さの中一生懸命作業に取り組んでいた。（勤労の尊さ）（４－（４））	暑いから早く終わりにしたい。 早く部活に行きたい。 頑張って仕事をして，早く学校へいこう。	暑さの中の奉仕作業はいやだな。 早く終わりにしたいな。		
3 作業が終了しようとしたとき，周りで明雄たちがいないことに気づき，問題となる。（思いやり）（２－（２））	「あの・・・」と言い出しそうになる声を飲み込んだ。 だいじょうぶだ。それに明雄たちは，自分で行ったのだから。	やった，さあ早く帰ろう。 あれ，明雄たちがいない。 さっきまでいたんだけど，家へ帰ってしまったんじゃないかな。 何だずるいな、俺たちは，こんなに暑いのを我慢してやっているのに。	・圭子はどんなことで迷っているのだろう。	練習に遅るとスタメンからはずされてしまう。 明雄たちが高速道路の方へ向かって行ったことを話さなければならないだろう。
4 圭子は明雄たちが「高速道路の方まで行ってみよう。」と言っていたことを思い出し，本当のことを言うかどうか迷ってしまう。（自主・自立・誠実）（１－（３））	メンバーに選ばれたいし今頃言い出してとみんなにも責められたくない。 後で分かったらいやだ今は帰って後で探しに行こう。 本当のことを言わないと後で後悔して練習に集中できない。 人の命にかかわることなので，本当のことを話そう。 だまっていようと圭子は思った。	なぜ今頃言い出すんだよ。 余計なことを言って。	◎圭子はどうすればいいのだろう。 ・圭子が見たことを話したら，みんなはどう思うだろう。圭子はどんな気持ちになるだろう。 ・圭子が見たことを話さなかったらどうだろう。圭子の気もちはどうだろう。	迎えに行けば練習時間にまにあわなくなってしまう。 スタメンからはずされたくない。 みんなに今頃言い出してと責められるのはいやだ。 みんなに責められても、やはり本当のことを話すことが大切。 みんなは明雄たちの悪口を言って誤解したままになってしまう。
5 圭子が黙っていようと思ったとき，大きなゴミ袋を担いで，明雄たちが戻ってきた。明雄たちは，額から玉のよう汗を流しながら，ゴミを区分け始めた。（誠実　１－（３））		あれ，明雄たちだ。 あいつら帰ったんじゃないんだ。 すごいや，あのゴミ袋をみろや。	・資料後半を読み自分の考えをまとめてみよう。	勝手なことをして事故なくてよかった。 本当のことを言わなかったことが恥ずかしい。

（2）指導案
展開

主な活動と発問	予想される生徒の反応	支援・留意事項・評価
Ⅰ　資料の前半を読み，話し合う。 ○　資料を読んだ初発の感想を書く。		○　資料前半を読んだ感想を２００字位に短くまとめさせ，終末の感想と比較し，価値観の変容を捉える。
○　暑さの中で奉仕作業をしているとき，圭子はどんなことを考えていただろうか。	・暑いな。 ・早く終わりにしてアトムの世話をして，食事もしたい。 ・早く部活に行きたい。	○　「早く部活に行きたいスタメンに選ばれたい。」という圭子の心情に十分自我関与させたい。
○　圭子はどんなことで迷っているのだろうか。	・明雄たちが高速道路の方へ向かって行ったことを話さなければならない。 ・迎えに行けば練習時間に間に合わない。 ・みんなに今頃言い出してと責められるだろうな。	○　圭子のおかれた状況を把握させる。 明雄たちのことを話せば，自分の不利益（せっかく練習してきたのに，スタメンに選ばれないかもしれない。）話さなければ問題が大きくなるし自分の気持ちが許さないだろう。
◎　圭子はどうすればいいのだろうまたそのように判断した理由はなんだろう。 ・　第１次の判断理由をもとに話し合う。 ・　焦点化して話し合いを深める。 (1)　圭子が見たことを話したら，みんなはどう思うだろう。圭子はどんな気持ちになるだろう。 (2)　圭子が見たことを話さなかったらどうだろう。圭子の気持ちはどうだろう。 ・　第２次の最終判断をする。	A　何よりも人の命が大切だから本当の事を話す。 B　新人戦のメンバーに選ばれたい気持ちは分かるが正直に見たことを話すことが大切である。 C　どっちにしようか判断できない。 D　せっかく練習してきた。明雄たちは黙って帰ってしまったかもしれない。黙っていよう。 E　メンバーに選ばれたいし，みんなに責められたくない。	○　評価　（シート）圭子の立場になって，自分なりの判断をする。 ○　評価　（役割演技）役割演技により自分の考えを表現する。 自分と違った判断の立場に立って考える役割取得の機会を導入することにより，主人公の気持ちを深くとらえさせる。 ○　評価　（シート）最終的な判断理由を書く
2　資料後半を読み，また授業を振り返っての自分の考えをまとめる。	・早く戻って来ればみんなが心配しなくてもよかったのに。 ・事故でなくてよかった。	○　評価　（シート）主人公，明雄たちの行為から自分を振り返ってまとめる。
3　教師の説話を聞く。	・本当のことを言わなかったことが恥ずかしい。	

(3) 授業分析

ア　感想内容の比較とアンケート調査

図１は，生徒の道徳意識の変容要因を，授業時間の中で資料読後の感想文と事後の感想文を通してとらえたものである。結果は，オのみんなの考えを聞いたり自分の考えを話したりすることによって道徳意識が変容した生徒が多く，16人いる。友達の考えを聞いたり，そのことに対して発言したりすることにより，自分と違った価値観に触れ、自己を見つめ直すことにより変容が図られたのではないかと考えられる。

また，キやクの役割演技によってと答えた生徒も７人いた。生徒の感想文の中に，「主人公やみんなの気持ちが劇などでよく分かってよかったです。」と言うように役割演技を取り入れた効果や，「役割演技を交換することにより，大勢の中で本当のことを言うことの難しさが実感できた。」と，生徒の感想が書かれてあったことなどから，話し合いを深める方法として効果があったようである。

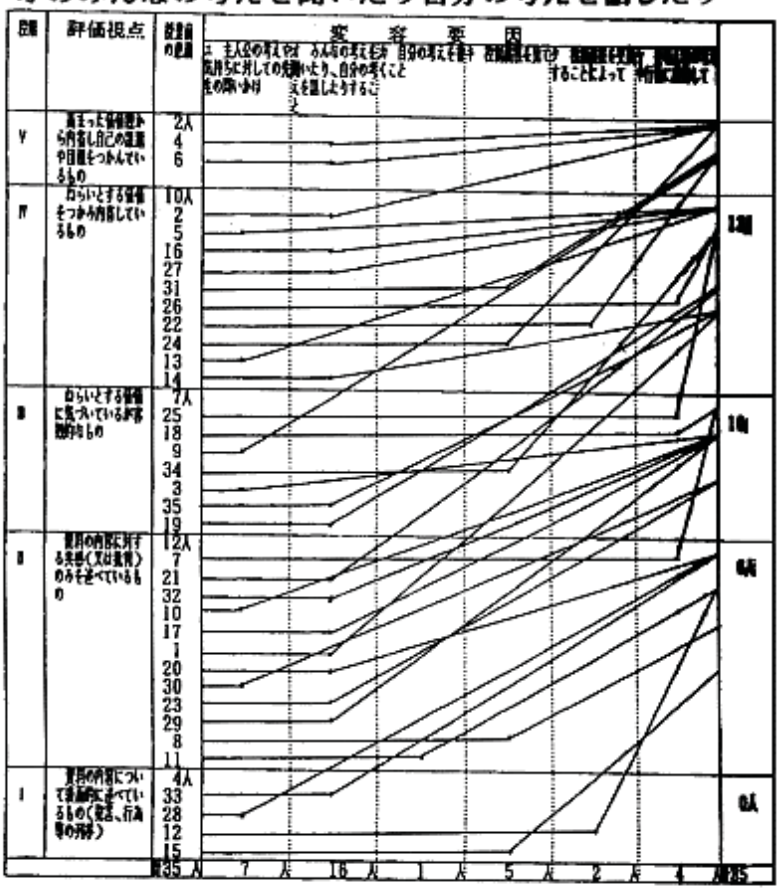


図　１　授業前授業後における道徳意識の変容とその要因

（「授業前の意識」の数字1～35は生徒を示すが，出席番号ではない。）

授業前　平8. 10. 5　授業後　平8. 10. 5実施　2年3組　35人

イ　生徒の自己評価から見る変容

評価のための生徒への意識調査を資料１のようなアンケート方式で授業前後に実施した。

資料１

ある日，僕は，クラスでトップ成績の杉下がカンニングをしているのではないかと不審に思える場面を目撃する。帰りの会後，教室に一人残っていた先生に話すと「確かに見たのか。」と言われる。「それらしい不審な行動をしていただけですが。」と言うと「それだけではカンニングしていたとは言えないな。後で本人に聞いてみよう。」とだけ言われて教室をでられた。

部活の後で杉下に会った。

「お前，今日のテスト，自分の力じゃなかったろう。」

「どこに証拠があるんだよ。俺はいつだって学年のトップなんだ。そんな日は，順位がもう少し俺に近づいた時に言ったらどうだ。証拠もないくせに。」と，杉下は捨てゼリフを残して去っていった。

次の日は，残りの４教科だった。僕の不得意な社会のテストの時。どうしても思い出せない。「そうだ。杉下だってやっているんだ。見つからなければ学年トップでいつもいられるんだ。僕だって・・・。」

資料集は，丁度そのページが開かれていた。

○　僕は，どんな気持ちになっただろう。

番　　氏名

Ｑ１　資料を読んで主人公はどんな気持ちなったと思いますか。次の１～５の中から選んで番号に○をつけなさい。

1　カンニングする
2　見つからなければいい。○○もやっているから
3　やりたいと思うが，見つかるといやだ
4　やりたいとは思うが，不正なことだからやらない
5　不正なことだから絶対にやってはいけない

Ｑ２　そのように考えた理由は何ですか。

1　そんなに悪いこととは思えない
2　おこられたくない
3　やってはいけないきまりだから
4　悪いことだからやってはいけない
5　不正なことは絶対やってはいけない

授業前の「誠実な行動」に対する意識調査では，見つからなければカンニングをしても良いという考えの生徒達が８人もいたが，授業後のアンケート調査ではカンニングするはいなくなり，不正なことは絶対やってはいけないという生徒が３人から14人へと変化した。このことから，「誠実な行動」に対する生徒一人一人の価値観が，資料を通して学習することにより高まったことが推測される。

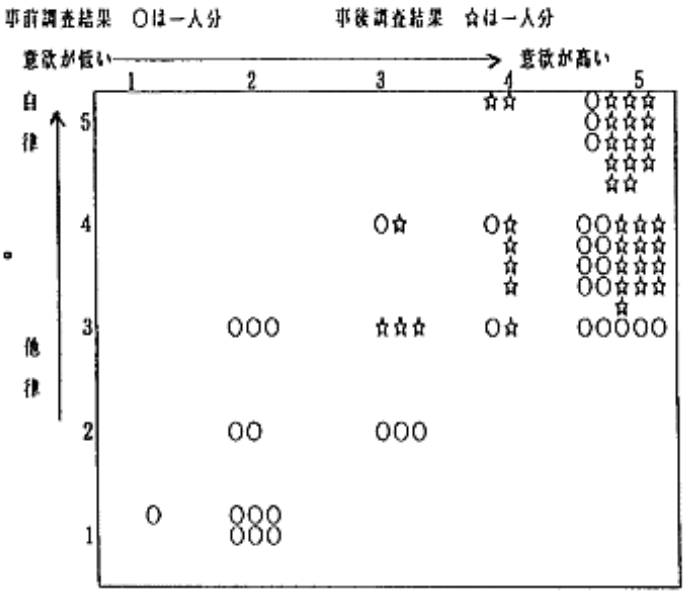


図２　誠実な行動に関する学級全体の変容
授業前平８．１０．５　授業後平８．１０．５
実施２年３組　３５人

ウ　生徒による資料評価

資料について生徒の思ったことや感じたことを線結びで回答させたところ表１のようになった。

資料の内容が身近なものだったのでと答えた生徒が35人中20人，分かりやすかったと答えた生徒が４人という結果から，資料作成時に考えた，「生徒の身近な素材で，分かりやすい表現で」という意図がほぼ達成されたのではないかと考えられる。

一方，やる気がおきた３人，もっと話し合いたいが３人で思ったより少なかった。資料を読んだ後に，道徳学習に対する積極的な取り組みにまで高まっていないことがうかがえる。資料を読んだ後，生徒の心に「ぜひ，この主人公についてみんなで話し合いたい。クラスのみんなはどんなことを考えたか聞いてみたい。」というやる気をおこさせるような構成の工夫が必要なのではないかと考える。

表１　資料内容に対する生徒の感想

道徳の授業を終えて
これはテストではありません。思っているとおりに書いてください。
道徳の授業が終わって，今一番感じているとおりに線を引いてください。
資料の内容が

ア	よくわかったので	4
イ	わかりにくかったので	
ウ	身近なものだったので	20
エ	身近でなかったので	1
オ	意外だったので	1
カ	おもしろかったので	4
キ	つまらなかったので	1
ク	むずかしかったので	2
ケ	感動的だったので	2

ア	やる気がおきた	3
イ	やる気がおきなかった	
ウ	満足した	4
エ	不満足だった	
オ	楽しかった	7
カ	つまらなかった	1
キ	もっと話し合いたい	3
ク	ためになった	17
ケ	ためにならなかった	

3　成果と課題

(1)　成果

○　生徒が自ら考え，判断する力を養うことを目指してこの題材を選定したが，事前，事後の意識調査からもうかがえるように，学習前より，より誠実な行動を取るという意欲に満ちた結果を得ることができた。

また，身近な素材であったことが生徒の興味・関心をよび，自己との対話が豊かになされた。

(2)　課題

○　資料作成の文章化にあたっては，生徒が積極的にテーマについて話し合いたいという意欲が持てるような表現の工夫をしていく必要がある。

【授業研究　9】

中学校第２学年「充実した生き方」における道徳資料の開発と活用の在り方

笠間市立稲田中学校　教諭　鈴木　　裕

1　資料開発にあたって

(1)　題材の選定

日々の生活や様々な学習活動の中で，生徒が互いのよさを見つけ合い，ともに高め合っていく配慮をすることにより，生活の質を高め，よりよい生き方を求めていく生徒の育成をめざしたい。

生活の質を高めるということは，生徒にとってもよりよい生き方，在り方をもとめていくことであり，それは日々の生活をいかに大切にしていけるかという問いかけでもある。また日々の生活を大切にするということは，今までの自分をふり返ったりしながら，よりよい生き方を求めていこうとすること（本資料の主題「充実した生き方」）でもある。

こんな思いから日々の生活を見ていると，実に様々な生徒の姿を見ることができる。日々の生活の中から生徒の心を育て，またより高い価値観から自分の生き方を見つめていく（自己との対話ができる）道徳の時間の充実をめざしたいと考えた。

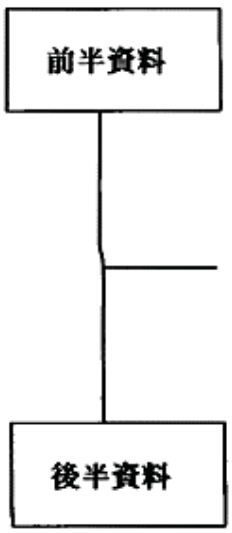
(2)　素材の収集

素材の収集にあたっては，生徒の日々の生活にかかわる身近なものを取り上げ，日頃の自分自身と重なりやすいものをと考えた。

そこで，毎日なにげなくやっている掃除という一つの視点から，生活や学習を見直し，生き方を見つめさせていくことができるのではないかと考えた。また，素材の収集にあたっては，生徒の日記を参考にした。

(3)　文章化

文章化にあたっては，生徒の日記という設定のもとに，日頃の掃除の取り組みから考えていること，悩みを問いかけるようにした内容のものを考え，前半，後半資料として活用できるようにした。



・・・資料の主人公の悩みを共感的に受けとめさせ，同時に生徒に掃除は「作品づくり」という視点を与え，考えさせるための資料として活用する。

・・・前半資料をもとに，話し合い活動（小集団）を取り入れ，生徒相互の考えを深め合う。

・・・続けることの意味を問い，こつこつとした日々の活動を大切にしていくという，人としての誠実な生き方について考えさせたい。

2　授業の実践

(1)　資料の分析表

学年	2学年	主題名	充実した生き方　1－(5)	資料名	掃除は　作品づくり？	出典	自作資料
ねらい	日々の生活を大切にし，「続けること」のなかにある人としての誠実な生き方について考え，より充実した生き方を求めようとする心情を高める。			事前指導の工夫	日頃から小さな活動にも言葉かけを大切にしたかかわり方をしていく。		
評価の工夫	一つ一つの発言を大切にする．ノートに書く時間を多くとる。			事後指導の工夫	目立たない活動にも目配り，気配りをしながら生徒のよさを伝えていく。		
補助資料等	［導入］　写真の提示　［展開］			［終末］　卒業生からの手紙			

話のすじ (資料に含まれる価値)	価値に迫る人物の言動と心の動き 中心人物の言動と心の動き	関連人物の言動と心の動き	・基本発問 ○中心発問	予想される反応
教室掃除をする主人公	・黙々と掃除をする主人公		・どんな気持ちでやっていたんだろう。	・何でみんなはきちんとやってくれないんだ。 ・自分は自分だ。
まじめにやろうとしない周りの生徒たち (誠実な生き方1-3)		・そんなにまじめにやってられないよ。		
自分も手をぬいてしまったことはあるがと考える主人公。 (勤労の尊さ4-4)	・自分の弱さについて考える主人公。			
ある時，先生が「掃除は，作品づくりだよ」と言っていたことを思い出す。 (充実した生き方1-5)	・どんな意味だろう。なんで掃除することが・・と考え込む。		・先生はどんなことを言おうとしたのだろうか。 ・作品づくりってどんな意味なんだろう。	・大切なものをつくるようにていねいにやろう。 ・わからない。 ・作品をつくるようにやることかな。
また，まじめにやってるよと言われる。 (誠実な生き方1-5)	・それでも黙々と掃除をつづける主人公。	・よくやってるよなぁ。	・ぼくの気持ちはどんなだろうか。	・いいかげんだ。 ・おもしろくない。
どうせ，また汚れるんだから・・という言葉も聞こえてくる (誠実な生き方1-3)	・はきすてるようにつぶやく友人たちの言葉に不快感をいだく。	・また汚れるんだから，いくらやったって同じだよ	・「どうせ，また汚れるんだから・・」という言葉について，どう思いますか。	・それはおかしいよ。 ・そうだなぁ。 ・いつもきれいな方がいいじゃないか。
考え込む主人公	・毎日，続けている掃除。一体，続けることにどんな意味があるのだろうか ・きれいごとにすぎないのではないか。		○「きれいごとにすぎないのか」というぼくの思いについてどう思いますか。	・きれいごとじゃない ・作品をつくるのと同じじゃないか。 ・また汚れるんだからそう思う。
ある先輩の掃除への取り組みについての話を聞かされて少しずつ気持ちを変化させていく主人公・・	・続けることに，どんな意味があるのか。 ・自分の生き方を見つめようとする主人公。	・黙々と掃除に，継続的に取り組んでいた生徒の姿（階段，トイレ）	・先輩たちはどんな思いでやっていたんだろうか。	・みんなが使うところだから。 ・きれいにして生活したい。
続けると，本物になる―― (誠実な生き方1-3)				
作品づくりは自分づくり―― (充実した生き方1-5)	・作品づくりという言葉にある思いについて考え始める主人公。		・作品づくりは自分づくりとはどういうことだろうか。	・続けて一生懸命やることからいい作品ができるけど，そうして取り組むことが自分をよくしていくということ。
今，自分が大切にして続けているものは――。 (充実した生き方1-5)	・自分なりの作品づくりを大切にしたい。			・精一杯やることは，自分自身をよくしていくこと。

(2) 指導案（展開）

主な活動と発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点　☆評価
1．日頃の掃除の様子を写した写真を数枚見る。 ○「掃除は作品づくり」という考え方についてどう思いますか。	・わかるような気がする。 ・よくわからない。	・生徒にとっては，いきなりの発問になるかもしれないので，その場で感じたことで判断してくれればよいとしたい。
2．資料（前半の資料）を読み，話し合う。 ○主人公は，何に悩んでいるのでしょう。	・掃除をやらない人がいる ・「掃除は作品づくり」の意味がわからない。 ・掃除をやることの意味がわからない。 ・「掃除は作品づくり」はきれいごとなのか。	・ここでは，心情を問う発問はせずに，問題点を明らかにするための発問としたい。 ・生徒からの意見は，考えられる限り出させるようにする。
◎「掃除はひとつの作品づくり」という言葉は，きれいごとに過ぎないのかとありますが，どう思いますか。	・きれいにするというのはひとつの絵を仕上げるのと同じことなのではないか。 ・きれいにするということが作品づくりということではないかと思う。 ・いくら掃除をしても，また汚れるの繰り返しで，きれいごとではないか。	・主人公の悩みの中から資料の最後の言葉をとりあげ，現実と主人公の思いのずれを共感的にとらえさせたい。 ・主人公の悩みを共有させ，生徒相互の考えを出させるためにも小グループでの話し合いとしたい。 ☆話し合いの中で，自分なりの考えを述べ合っているかを観察する。 ・話し合いの中で気づいたことや考えたことについてより多くの意見を引き出したい。
3．後半の資料を読み，今の思いをノートに書く。	・最近の自分の生活について考えさせられた。もう少し，一つ一つのことを大切にして真剣に取り組みたい。 ・掃除の意味みたいなことがわかったような気がする。 ・一つのことを続けていくことの大切さと今の自分について考えさせられた	・後半の資料では，主人公なりの考えが出されるので，それを生徒一人一人が今度は自分の生き方と重ね合わせて考える場としまた互いに高まり合う場としたい。 ・読み終えて，しばらく静かに時間をとってから，一気にノートに向かわせたい。 ・ノートに書く時間をできるだけとりたい。 ☆ノートに書かれたことから生徒の考えの深まりや変容をとらえたい。
4．卒業生からの手紙の朗読を聞く。		・ＢＧＭを流しながら，静かに読み余韻を残しながら授業を終える。

(3) 授業分析

ア　感想内容の比較とアンケート調査

授業前に資料（前半）を読んだ段階では，内容に対する共感を述べていた生徒と日頃の自分についてふり返っていた生徒に反応が分かれていた。

授業後の感想では，「私は今まで長く続けることができなかった。続けるといい作品ができる・・部活でも毎日基礎練習をきちんとやっていれば・・。」「・・授業では掃除のことをとりあげていましたが，掃除にかかわらず，一つ一つ全てのことを一生懸命続けていきたい・・。」といった感想が多く見られ，資料や話し合いを通して自分の生き方を見つめ，自己との対話を深めていた。

また，授業後の変容のきっかけとして，「主人公の考えから」（11人）「みんなで考えを出したり，話し合ったりすること」（11人）をあげた生徒が最も多かった。このことから，身近な題材から作成した本資料は，自分の生き方を見つめさせ，自己との対話を深めさせていくためにも有効であったと考えられる。

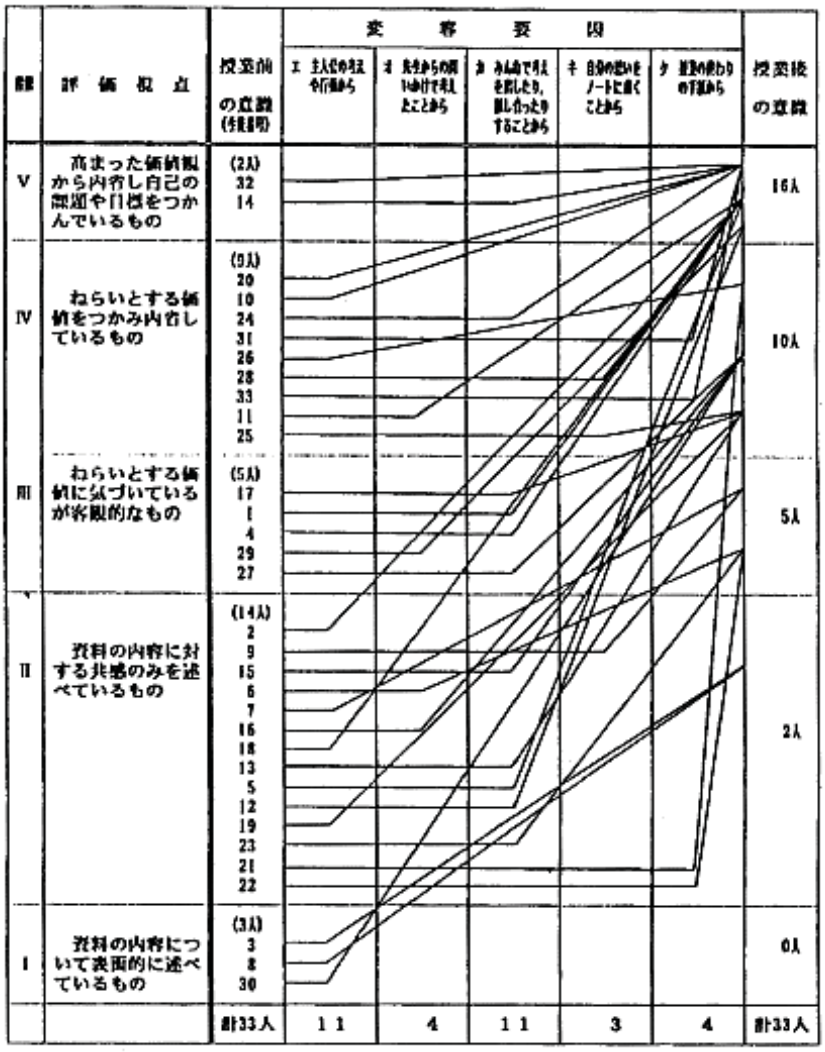
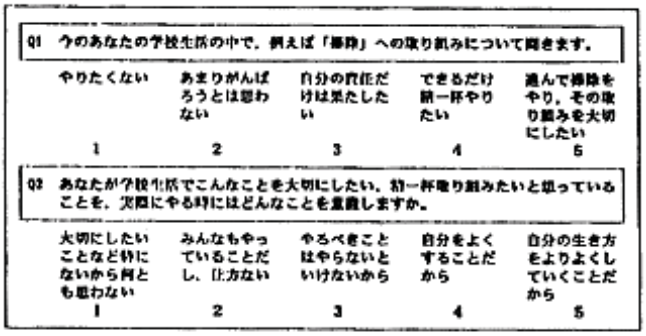


図1　授業前・授業後における道徳意識の変容とその要因（「授業前の意識」の数字1～33は生徒の番号を示す。意識段階Ⅵは出ない。）



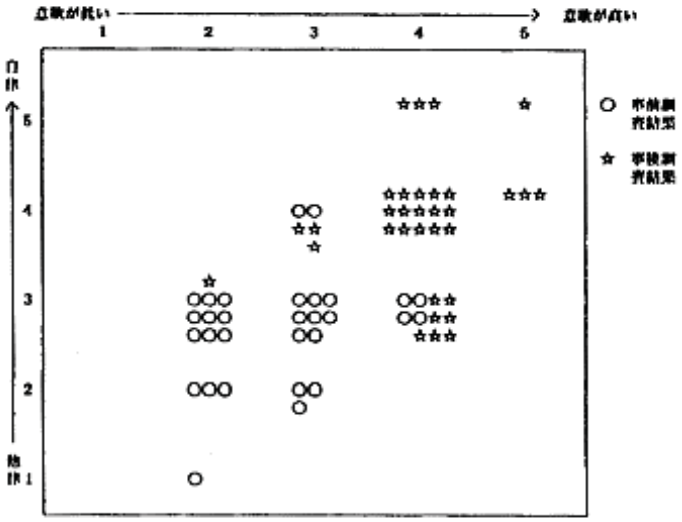


図2　充実した生き方に関する学級全体の変容（実施 平成3.10.16　実施 平成3.10.17　対象 2年生 33人）

イ　生徒の自己評価からみる変容

授業前と授業後でどのような変容が見られるかについてのアンケート結果の集計が右の資料である。

授業による生徒の変容度がよくわかる。高まった価値観によって意欲的な態度への変容のあとが見られ，授業を通して自分の生き方を見つめていったことがよくわかる。

ウ　生徒による資料評価

右の資料は，授業後の生徒による「資料についての評価」である。これを見ると，最も多い感想は，「資料内容が，自分のことが考えられる内容だったので，精一杯取り組んでいこうという気持ちになった」であった。

表１　資料内容に対する生徒の感想(平8. 10. 17 実施 2年2組 33人)

これはテストではありません。思っているとおりに書いてください。
道徳の授業が終わって，今一番感じている通りに線を引いてください。

資料内容が	ア	身近なことについてのものだったので	12人		ア	今までの自分やこれからの自分について考えさせられた	15人
	イ	自分のことが考えられる内容だったので	16人		イ	精一杯取り組んでいこうという気持ちになった	18人
	ウ	心に残る内容だったので	5人		ウ	やる気がおきなかった	0人
	エ	自分にはあまり関心のないものだったので	0人				

生徒の感想をいくつか紹介してみる。

・道徳の授業で「自分」について振り返りました・・私も手をぬいて掃除をやっていたこともありました・・でも毎日きちんと続けることで自分を大きく育てることができるなんて，「続ける」ということは目には見えないけれど，とても強力な力があるんだなと思いました。学校生活の中で，どんな小さなことでも，その人にプラスになっていくんだと思いました・・。

・授業の中の「作品づくりは，自分づくり」という言葉がとても気に入りました。作品づくりは自分をつくり上げること・・私はこれから自分やみんなのためにと思ってがんばれるような気がします・・。

・資料にあった「掃除は作品づくり？」がよくわからなかったが，授業をすることにより意味がわかりました。僕も一枚の絵を仕上げるように・・きれいにしたい。授業後での気持ちが変わったような気がします。これからは，一つ一つのことに精一杯努力したい

これらの感想には，資料内容が身近なできごとでそれまでの自分をふり返られる内容であったこと，また掃除 ― 作品づくり ― 自分づくりというとらえ方から自分の生き方を見つめ，掃除ばかりではなく日々の生活の中で自分を高めていけるようにしたいと述べられている。このことから，本資料が生徒にとって自己との対話を深めていく上で有効であったと考えられる。

3　成果と課題

1　成果

○　資料内容が生徒の身近なものであったため，反応もよくノートに書かれた内容についても，自分のこれまでのことや今の自分を深く見つめたあとが見られた。

○　発問については，導入の発問が資料の問いかけにもなっており，一貫性をもたせるようにしたため，話し合いが活発化し，自己との対話が有効に行われた。

2　課題

○　自己との対話をさらに豊かにするために，何を，どのように考えさせるのかについての発問の検討を含めた授業のあり方について研究していきたい。

［授業研究　１０］

中学校第２学年「生命の尊重」における道徳資料の開発と活用の在り方

出島村立南中学校　教諭　真家　好明

１　資料開発にあたって

(1)　題材の選定

中学生のこの時期は，心身ともに著しく発達するが，心と体が必ずしもバランスよく発達するのではなく，情緒も不安定になりがちである。そのためか，自分の気持ちや体力のおもむくままに行動した中学生による生命を軽視した事件や事故も，しばしば新聞やテレビでも報道されている。人は，平穏な生活を送っているとき，生命の尊さや生きることの意義を実感することが少ない。ましてや心身の発達が著しく，気力が充実している中学生にあってはこの傾向は一層顕著である。

しかし，このような中学生の時期にこそ，人の命がこの世に生を受けたたった一つしかない大切なものであること，自他の生命が近親者や周囲の人々の温かい心遣いによって支えられていることなどに気づかせることは意義深いと思われる。

そこで，生命の大切さを自覚できるような自作資料を作成し，生徒一人一人が今までの自分の生活を振り返り，力強く生きていくことに喜びを見いだせることを願って，この題材を選定した。

(2)　素材の収集

資料の開発に当たっては，まず私たちの生活の中で，「最も生命の尊さを感じるときは，どんなときだろうか。」と考えた。すぐ思い浮かぶことは，生命が誕生したときと，生命を失ったときの二つである。次に，生徒の日常生活に着目して「生命の尊さ」について考えて見ると，一番生命を失う危険性が高い交通事故のことが思い浮かんだ。これは，生徒たちにとっても，身近な問題であると考えられる。

そこで，登下校の際に交通事故の危険にさらされていることが多く，危ない思いをした生徒も多くいるという本校の実態から，交通事故による生死の問題を資料化することに決定した。

素材の収集には，新聞記事や生徒作文などが考えられたが意図とする内容に合致したものがなく，自分の今までの生活体験から資料を作成することを試みた。

資料の内容は，生徒たちの日常生活で起こり得る出来事なので，少なからず感じる部分はあると思われる。主人公である私や，母の心情を思考することで，自己を見つめ，自己との対話が豊かにできるものと思われる。その結果，生命を尊重しようという心情が高まるのではないかと考えられる。

(3)　文章化

文章化に当たっては，常に「主人公」と「母」の心情に共感させることと，資料を読む生徒が自己との対話が豊かにできることを心がけた。また，ねらいとする価値を明確にすることと中心場面を考えて文章を構成した。

2　授業の実践

(1)　資料の分析表

学年	2学年	主題名	かけがえのない命　　3－（2）	資料名	タンポポの咲くころ	出典	自作資料
ねらい	生命とは，かけがえのないものであることを自覚し，自他の生命を尊重しようとする心情育てる。			事前指導の工夫	問題場面の実態調査をして，本時のねらいに関する生徒一人一人の実態を把握しておく。		
評価の工夫	授業前後に資料を読んでの感想を書いてをもらうことにより道徳的意識の変容を評価する。			事後指導の工夫	日常生活のいろいろな場面や機会を通して「生命の尊重」について指導・助言していく。		
補助資料等	［導入］		［展開］・ワークシート ・場面絵		［終末］・生徒の作文（新聞記事）の朗読。		

話　の　す　じ 資料に含まれる価値）	価値に迫る人物の言動と心の動き 中心人物の言動と心の動き	関連人物の言動と心の動き	・基本発問 ◎中心初問	予想される反応
1 今年もタンポポの花の咲く季節がやってきた。このタンポポを見るたびに二年前の出来事がよみがえってくるのである。 2 遠足からの帰宅途中に弟が車にはねられて死んだ。 3 あの日の夕方，電話のベルはいつになく大きく響いた。 4 病院に運ばれた弟は手術をうけ，母は無言のまま弟の手をにぎりしめていた。 家族愛，生命の尊重） 5 三時間後，弟は亡くなり遺体となって帰宅する母は親戚の人たちの前で「浩二，こうじ，こうじ」と泣きくずれた。 （家族愛，生命の尊重） 6 お葬式が行われた。 7 数日後，弟のリュックサックが届けられた。 8 あれから二年が過ぎた今年も，あの黄色いタンポポの花が，あざやかに咲いている。	o私は急いで弟のはねられた現場に向かった。 ・大丈夫だろうか。 ・信じられない。 o私は，手術中の赤ランプだけを見つめ「助かりますように。」と祈っていた。 ・とにかく助かってほしい o私は，頭の中がまっ白になり，ただ，弟を見つめているだけであった。 ・何が何だかわからない。 o私は，なぜか平静を装ってこたえていたような気がする。	o母は無言のまま弟の手をにぎりしめていた。 ・がんばるんだぞ。 ・助かってほしい。 o母は，突然こらえきれなくなって弟にしがみついた ・悲しくて悲しくて…… ・信じられない。 ・目をさましてほしい。	・電話で連絡をうけたとき，私は，どんな気持ちになったか。 ・母が無言のまま弟の手をにぎりしめているのを見たとき，私は，どんな気持ちだったか。 ◎どんな思いから母は親戚の人たちが，来たとき「浩二，こうじ，こうじ。」と叫んだのだろうか。 ・毎年，タンポポの花を見るたびに，私はどんなことを思いながら過ごしているのだろうか	・信じられない。 ・大丈夫だろうか ・ぼうぜんとした ・とにかく現場に急ごう。 ・とにかく助かってほしい。 ・どうして交通事故になんかあってしまったのか。 ・目をさましてほしい。 ・本当に死んでしまったのか，まだ信じられない。 ・もう会えないなんて悲しい。 ・生き返ってほしい。 ・弟の分まで元気に過ごそうと思っている。 ・とても悲しい気持ちになる。

(2) 指導案

展開

主な活動と発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点
1 生命の大切さを感じたことを話し合う。		○ 思ったことを素直に述べさせ，ねらいとする価値への方向付けをする
○「いのち」という言葉から，どんなことを思い浮かべるか。	・かぎりあるもの。 ・死にたくない。 ・大切にしなければならない。	
2 資料「タンポポの咲くころ」を読んで話し合う。 ○電話で連絡を受けたとき，私はどんな気持ちになったか。	・信じられない。 ・だいじょうぶだろうか。 ・ぼうぜんとした。 ・とにかく現場に急ごう。	○ 事故を知らされたときの状況を理解させ，衝撃を受ける私の気持ちを考えさせる。 ＜評価＞私の気持ちがわかったか。 （発表・観察）
○母が無言のまま弟の手をにぎりしめているのを見たとき，私は，どんな気持ちだったか。	・とにかく助かってほしい。 ・どうして交通事故になんかあってしまったのか。	○ 弟の状況と母の姿を見て，まだ信じられない私の動揺する心に気づかせる。
◎どんな思いから母は親戚の人たちが，来たとき「浩二。こうじ。こうじ。」と叫んだのだろうか。	・目をさましてほしい。 ・本当に死んでしまったの，まだ信じられない。 ・もう会えないなんて悲しい。 ・生き返ってほしい。	○ 自分の子の死という現実に直面した母親が耐えきれず叫んだ母親の悲しみに共感させる。 ＜評価＞母の悲しみに共感できたか。 （ワークシート・発表）
○ 毎年，タンポポの花を見るたびに 私はどんなことを思いながら過ごしているのだろうか。	・弟のぶんまで元気に過ごそうと思っている。 ・とても悲しい気持ちになる。 ・とてもくやしい気持ちになる。 ・交通事故にあわないように，いつも気をつけながら過ごしている。	○ タンポポの花を見たときの私の気持ちを考えさせる。
3 自分の生活を振り返り，生命の尊さ，生きることのすばらしさ，生きている喜びについて感じたことを発表する。	・病気が治ったとき ・持久走大会で完走したとき ・自分の家で飼っている牛から赤ちゃんが生まれたとき ・交通事故をまぬがれたとき	○ 自己の経験をもとに，その時の心を想起させ，生命の大切さについて考えさせる。 ○ 病気から回復したとき，事故をまがれたとき，なにかをやりとげたときなど，すべては生きていることが前提になることをわからせたい。
4 教師の話を聞く。		○ 生命の尊さについて認識させるとともに，かけがえのない生命が，今自分に与えられていることに気づかせ，喜びと感謝の念をもって，強く生きることの大切さを確認させる。

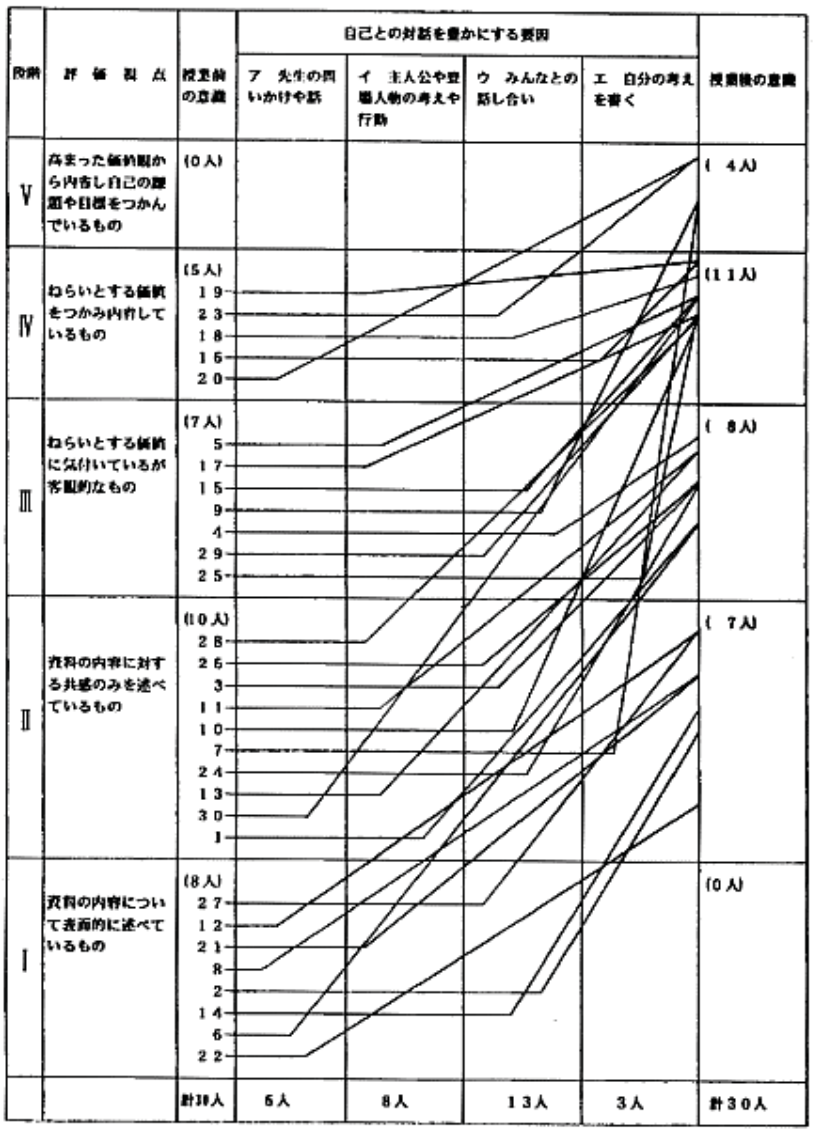
(3)　授業分析

ア　感想内容の比較とアンケート調査

図１は，生徒の道徳意識の変容とその要因を，授業前と授業後の感想文を通してとらえたものである。

分析結果から，授業を通して道徳意識が変容した生徒が多くいたので，ねらいは概ね達成できたと言えよう。

変容要因として「みんなとの話し合い」によって道徳意識が変容した生徒が13人いる。このことは，話し合いによって，多様な価値観に触れ，生徒一人一人が様々に思考し，自己との対話が豊かになされ，その結果として自己を見つめ直すことにつながったのではないかと推測される。



（「授業前の意識」の数字1～30は生徒を示すが，出席番号ではない。）

図１　授業前・授業後における道徳意識の変容と変容要因

イ　生徒の自己評価から見る変容　（授業前 平 8.10.15 授業後 平 8.10.17　2年5組 30人）

授業前と授業後に，右のようなアンケートを実施して，生徒自身の自己評価からの変容を調べた。

アンケートの結果をみると，授業前の意識調査では，「いのち」は多くの人々によって支えられていると考え

授業前・授業後の意識調査

Ｑ１　あなたは「いのち」についてどのように考えていますか。

1　あまり考えたことがない。

2　時々考えるが意識しないことのほうが多い。

3　大切なものであると考える。

4　多くの人々によって支えられていると考える。

Ｑ２　学校で飼育していたうさぎが死んでしまった。あなたはどんなことを思いますか。

1　仕方ないと思う。

2　かわいそうだから埋めてやりたいと思う。

3　残されたうさぎは一生懸命に飼育して絶対に死なせないと思う。

4　うさぎ以外の全ての動植物のかけがえのない生命も大切にしたいと思う。

た生徒が３人だったが，授業後は１１人へと変化した。

このように事後調査の☆印が，全体的に右上に移動しており意欲の高まりと，他律から，自律への変容がとらえられる。

このことから，自作資料を使用して学習したことによって，自己を見つめ，自己との対話が豊かになされ，「生命の尊重」に対する生徒一人一人の価値観が高まったと推測される。

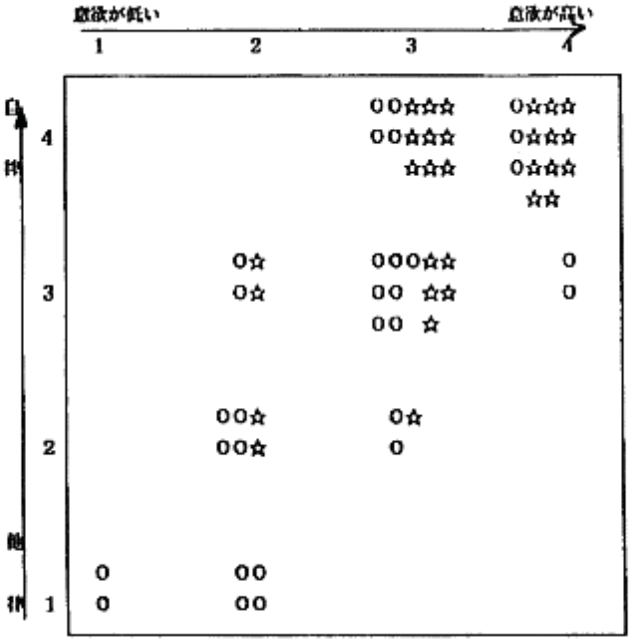


図２　生命の尊重に関する学級全体の変容
（授業前　平8．10．15　授業後　8．10．17　実施　2年5組　30人）

○印は事前調査結果　☆印は事後調査結果
いずれも一つが一人を示す。

ウ　児童生徒による資料評価

資料について生徒の思ったことを線で結んで答えさせたところ右のような結果になった。

最も多かった人数を結ぶと「感動的だったのでためになった」となる。この結果をみると，資料作成前に考えた，「自己を見つめ，自己との対話が豊かにできる」という意図がおおむね達成できたのではないかと考えられる。

表　資料内容に対する生徒の感想
（平 8.10.17 実施　2年5組 30人）

―――道徳の授業を終えて―――

これはテストではありません。思っているとおりに書いてください。
道徳の授業が終わって，今一番感じている通り線を引いてください。

資料の内容が

ア	よくわかったので	7
イ	わかりにくかったので	1
ウ	身近なものだったので	3
エ	身近でなかったので	0
オ	当たり前のことだったので	0
カ	意外だったので	0
キ	おもしろかったので	1
ク	つまらなかったので	0
ケ	やさしかったので	1
コ	むずかしかったので	0
サ	感動的だったので	17

ア	やる気がおきた	3
イ	やる気がおきなかった	0
ウ	満足した	1
エ	不満足だった	0
オ	楽しかった	1
カ	つまらなかった	1
キ	もっと話し合いたい	0
ク	ためになった	24
ケ	ためにならなかった	0

3　成果と課題

(1)　成果

○　身近な素材を資料化したことと，教師自身の自作資料であったため，生徒の興味・関心をよび自己との対話が豊かになされ，生命を尊重しようという心情が育った。

(2)　課題

○　生徒にとって身近な問題から資料を作成し「一人一人が自己との対話を豊かにできる」ことを視野に入れて，生命尊重の授業を行い，ある程度の成果はあった。今後も道徳的実践力を高められる資料開発に取り組み，いま求められている人間として生きる力を培うことのできる道徳授業を目標にして，一層研究を積んでいきたい。

【授業研究　１１】

中学校第２学年「集団の一員として」における道徳資料の開発と活用の在り方

鹿嶋市立鹿島中学校　教諭　内野　宗長

1　資料開発に当たって

（1）　題材の選定

中学生の時期は集団生活の中で，体験を通して社会性を身につける大切な時期である。

道徳の時間は学校教育全体を通じて行われる教育活動と常に密接な関連を持ち，生徒一人一人が主題にそって生き方としての自分を見つめる時間となる。しかし，全ての生徒が主体的に協力し，その役割を自覚し責任を果たしているわけではなく，集団生活の意義が理解できないため，集団の一員としての役割の自覚が不足している生徒もいる。

全ての生徒が集団生活の中で生かされ成長していくためには，その集団生活の意義が一人一人の生徒に受け入れられることが基本となる。そして，集団の一員としての役割を自覚したとき，その集団の中で自分を生かし責任を果たそうとする意欲と行動が出てくる。

そこで，生徒の関心の高い学校行事をとりあげ，自作資料を作成し，生徒一人一人が豊かな自己との対話ができよりよい生き方につながることを期待してこの題材を選定した。

（2）　素材の収集

この資料は生徒作文であり体育祭実行委員長である主人公が体育祭の様子を振り返ったものである。ここでは体育祭実行委員長が生徒主体の体育祭を目指すが練習に参加してくれない生徒に手を焼いている様子が書かれている。最後まであきらめずに努力する主人公の姿に共感できる生徒も多いだろう。また，体育祭は集団の一員としての意義や課題も多く，多様な価値観が出やすいため，主人公の考えと自分の考えとの対比やみんなとの話し合いの中で豊かな自己との対話ができるようにし，ねらいとする価値に迫らせたい。

（3）　文章化

主人公が困難にぶつかったときの揺れ動く気持ちを理解しやすく表現し，主人公が困難を乗り越え最後までやり遂げた自分を認め，これからも集団の一員としての役割を自覚しよりよく生きていこうとする姿勢に共感しやすい資料になるよう努めた。

体育祭という体験を通して変容した主人公の考えと生徒が自分の考えや行動とを対比させて豊かな自己との対話がしやすいように心がけた。

さらに，価値へ迫る発問が考えられる場面では多様な価値観を引き出せるように主人公の心情の変化の様子が直接表現とならないように生徒作文を一部修正した。

2　授業の実践
（1）　資料の分析表

学年	1学年	主題名	集団の一員として　4－（1）（役割と責任）	資料名	最後の体育祭	出典	自作資料 生徒作文
ねらい	集団の一員として役割と責任を自覚し，お互いに信頼し，協力し合って，よりよい集団生活を実現しようとする態度を育てる。			事前指導の工夫	アンケートをとって班活動の班長としての苦労や良かった点を調べ，集団の一員としてやリーダーとしての責任と役割の生徒の関心を高めておく。		
評価の工夫	感想文を書かせて内容の変化から道徳意識と実践意欲の変容について評価する。			事後指導の工夫	清掃活動や班活動を通して責任と役割に触れていきたい		
補助資料等	〔導入〕集団の一員としての意識調査の結果を使う。		〔展開〕場面絵		〔終末〕これまでの生活を振り返りノートにまとめる		

話のすじ（場面）（資料に含まれる価値）	価値に迫る人物の言動と心の動き：中心人物の言動と心の動き	価値に迫る人物の言動と心の動き：関連人物の言動と心の動き	○ 基本発問　◎ 中心発問	予想される反応
最初の感想。				大変だな。という読み終えたときのつぶやきやうなずき。
主人公は体育祭実行委長であり，今年の体育祭は生徒中心に行うという説明。（愛校心4－（6）） 体育祭の練習がはじまる。 主人公は生徒中心の体育祭に不安を感じており，練習がはじまると不安は的中していた。	不安な気持ちでいっぱいである。 僕の不安は的中した。 「手足をそろえて下さい」マイクに向かって夢中で叫んでいた。	みんなだらだらと全くやる気がない。	○なぜ不安なんだろう。 ○マイクに向かって叫んでいるときの主人公の気持ち。	生徒中心にできるかどうか。 みんなが協力してくれるかどうか。 不安が的中した。 最後の体育祭だから頑張って欲しい。 どうすればいいのだろうなんて無責任なんだ。 体育祭を成功させたい。 協力して欲しい。 情けない悔しいから。
実行委員会で今日の反省をする。 遅くまで話し合いをした。 明日からは実行委員で列をまわり呼びかけることになった。			○どうしてそんな叫び声で叫んだのだろう。	
体育祭の練習二日目。 今日の練習は校歌斉唱	僕は耳を疑った。 三年生が中心にやらなければいけないのに。 みんなはどんな気持ちなんだろう。	ほとんど声が聞こえない。	○なぜ大きな声で歌わなかったんだろう。	実行委員の苦労が分からないから。 みんなが歌わないから。 恥ずかしいから。 めんどくさいから。
体育祭の練習三日目。 実行委員が各クラスの朝の会で「生徒主体の体育祭」を呼びかける 学年種目の練習も始まる。				
クラスによってはまとまりや主体性が見え始めた。 開会式の練習も行われる。	僕の不安はつのった。	準備体操の練習では手足が動かない生徒がいる。 実行委員の顔つきは厳しさを増す。	○実行委員は何を考えていたろう。	どうしたらよいのだろう
体育祭当日。	期待を胸に行進した。			
開会式		まずまず行進も歌もできた		
競技がはじまる。		各学年ともクラスのために一致団結して取り組んでいる。 みんなの顔つきが違う。 みんなが一斉に声をかける		
最後の種目。 これで順位が決まる。				
閉会式		友達の目には涙があった。	○主人公は何を悔やんでいるのだろう。 ○後悔だけだったかな。 ◎なぜ主人公は考え方が変わったのだろう。 ○残りの１０％は何だろう。	行進や歌をきちんとしたかった。 練習を生徒中心にして欲しかった。 自信も湧いてきた。 自分は精一杯努力することが出来た。 生徒中止のの体育祭が出来た。 この経験をこれからの生活に生かしたい。
体育祭が終わって。 （役割と責任4－（1）） （よりよく生きる1(5)）	心残りが多い。 悔やむことばかりだ。 新しい価値に覚醒する。 僕の中で自信が湧いてきた（主人公の考え方が変わってきた。）			

（2） 指導案
展開

主な活動と発問・指示	予想される生徒の反応	支援・留意点・評価
1　資料「最後の体育祭」を読んで話し合う。 指　感想を書く。 ・　資料を読みながらうなずいていましたがどんな感じがしましたか。 ・　何が大変だと思いましたか。 ・　なぜそう思いましたか ・　入場行進の練習で「手足をそろえて下さい。隣の人と列を合わせて下さい。」と焦ってマイクに向かって叫んでいた。主人公は何を考えていましたか。 ・　体育祭が終わってすぐに主人公は何を考えていましたか。 ○　主人公は悔やんでいる様子ですが何を悔やんでいました。 ・　後悔だけだったかな。 ◎　「少しずつ僕の中で，自信が湧いてきた。」と言っているが，主人公は体育祭が終わってどんな考え方に変わったのだろう。 ○　主人公は体育祭からどのようなや生き方を学んだのだろう。 2　これまでの生活を振り返る。 3　授業を終えての感想を書く。	・　頑張って欲しい。 ・　大変だと思った。 ・　みんなが協力してくれない。 ・　自主的な参加をしてくれない。 ・　マイクに向かって叫んでいた。 ・　体育祭を成功させたい。 ・　不安が的中した。 ・　生徒だけでは無理なのか？ ・　どうすればいいのだろう。 ・　情けない。悲しい。 ・　なぜ協力してくれないのだろう ・　なんて無責任な人達だろう。 ・練習に協力して欲しかった。 ・行進や歌を頑張って欲しかった ・生徒中心の体育祭は成功したのだろうか。 ・自分なりに努力したのに全校生徒の協力を得ることはできなかった。自分でこれまでやってきたのは，全く意味がないのか。 ・俺には才能がないのか。 ・　自信が湧いてきた。 ・自分は精一杯努力した。 ・生徒中心にできた。 ・体育祭は９０％成功したから。 ・これからの生活に活かしたい。 ・　自分のおかれた状況をありのままに認め，そこでどうすることがよりよい生き方になるかを考えること。 ・　自分の思うようにならなくても投げやりにならず，自分に与えられた役割や責任を自覚し一生懸命努力することで自分もその集団も向上し，充実した生活を送ることができること。 ・　途中いやになったこともあったが頑張って責任を果たしてきた。 ・　これまで協力性に欠けていたがそれではいけないと思った。	・　資料を録音したテープを流す 留　生徒のつぶやきやうなずきを見逃さない。 ・　発問の流れに関連を持たせながら中心発問へと進んでいく。 ・　実行委員長の叫んでいる言葉を読ませる。 評　主人公の不安な気持ちに共感することができたか。 （発表，観察） ・　主人公が新しい価値に気付く 評　主人公の考えと話し合いで出た多様な意見を自分の考えと対比させて豊かな自己との対話を行い深い価値把握ができたか。 （発表，感想文） ・　新しい価値観にたってこれまでの生活を見直す。ノートにまとめる。十分時間をとる。 ・　何人かに発表してもらう。 評　深まった価値観とこれまでの自分の考えや行動を対比させて豊かな自己との対話を行い集団の一員としての道徳意識と実践意欲が高まったか。（感想文）

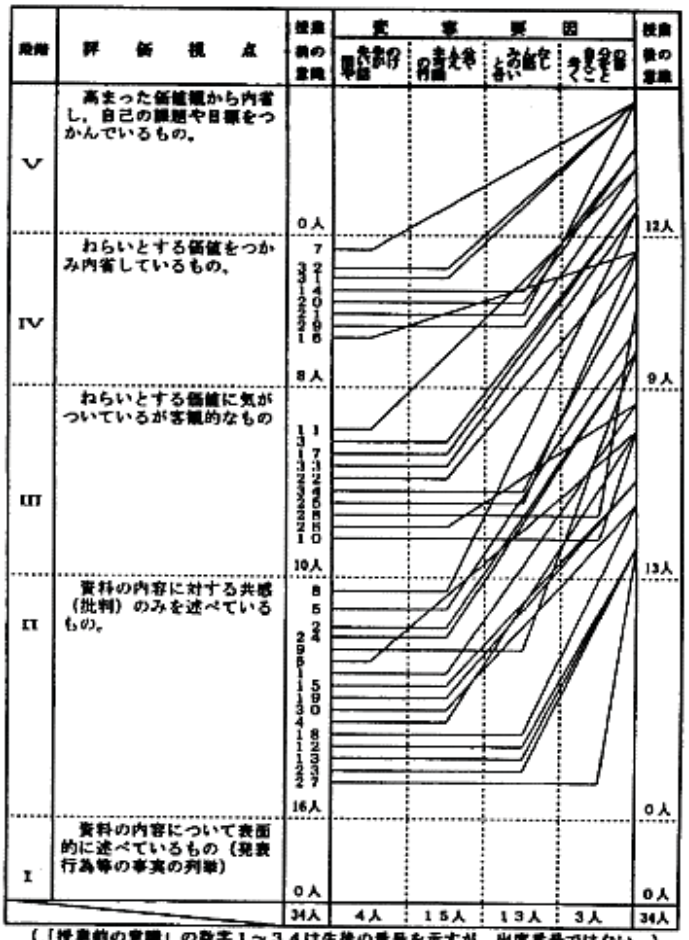
(3)　授業分析

ア　感想内容の比較とアンケート調査

図１は，生徒の道徳意識の変容と変容要因を事前・事後の感想文と授業後のアンケート調査を通してとらえたものである。段階Ⅰ～Ⅴは感想文の評価視点で，道徳意識の変容の段階を示している。

感想文を評価視点に基づいて分析すると，授業後ほとんどの生徒が上の段階に道徳意識が変容していた。また，アンケート調査から変容要因を分析すると「主人公の考えや行動によって」と答えた生徒が15人，「話し合いによって」と答えた生徒が13人いた。

これらのことから，主人公の考えや行動及び友達の多様な考えと自分の考え等を対比させることによって自分を深く見つめ，自己との対話が豊かにできたと解釈できる。



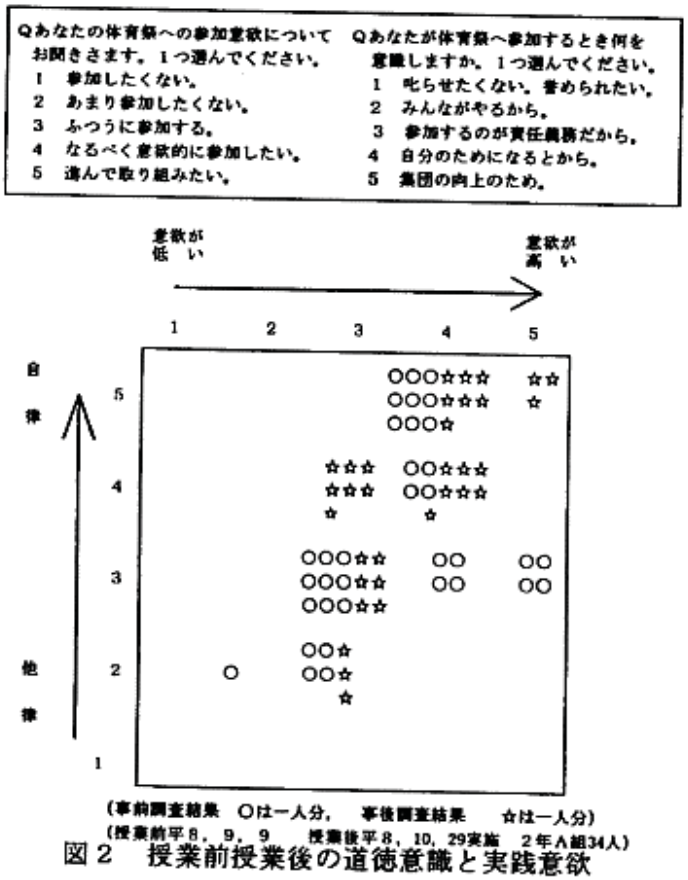
（「授業前の意識」の数字１～３４は生徒の番号を示すが，出席番号ではない。）
（平８．10．18　実施　２年Ａ組　34人）

図１　授業前授業後における道徳意識の変容とその要因

イ　児童生徒の自己評価から見る変容

図２は，授業前，授業後の道徳意識と実践意欲の関連について表したものである。結果は「参加するのが責任義務だから」という生徒は17人から６人に減り「自分のためになるから」という生徒は４人から14人に増えている。また，「あまり参加したくない」という生徒は５人から３人に，「ふつうに参加する」という生徒は17人から６人に減り，「意欲的に参加したい」「進んで取り組みたい」という生徒は13人から24人に増えている。主体的な態度が育っていると考えられる。

これは授業において高まった道徳意識と今までの自分の意識を対比させ，豊かな自己との対話ができたため自律的な実践意欲が育ってきたと考えられる。



（事前調査結果　○は一人分，　事後調査結果　☆は一人分）
（授業前平８．９．９　授業後平８．10．29実施　２年Ａ組34人）

図２　授業前授業後の道徳意識と実践意欲

ウ　生徒による資料評価

表１　資料内容に対する生徒の感想　（平　８．１０．１８　実施　　２年Ａ組）

Ｑ　道徳の授業が終わって今回の資料について感じているとおりに選んでください。

資料内容が

よく分かったので	１３
分かりにくかったので	０
身近なものだったので	１４
身近でなかったので	０
当たり前のことだったので	１
意外だったので	２
おもしろかったので	１
つまらなかったので	０
やさしかったので	１
むずかしかったので	０
感動的だったので	３

やる気がおきた	５
やる気がおきなかった	０
満足した	３
不満足だった	０
楽しかった	３
つまらなかった	１
もっと話し合いたかった	４
ためになった	１５
ためにならなかった	０
深く考えた	４

項目右側の数字は人数

表１は，資料内容に対する生徒の感想を分析したものである。結果は，資料の内容について「身近に感じた」生徒が14人いる。体育祭という題材は生徒にとって身近なものであり関心が高い内容であったと考えられる。「よくわかった」という生徒は13人いる。生徒の実態にあっていたことと共感しやすい内容であったことが主人公の考えや気持ちを受け入れ分かりやすくしたと考えられる。「ためになった」生徒が15人，「もっと話し合いたい」が４人，「深く考えた」が４人いる。これから資料内容が生徒の関心が高く実態にあっていたため，自己との対話が豊かにでき，深い価値把握ができたと考えられる。

３　成果と課題

（１）　成果

「自己との対話を豊かにできる道徳の授業」を目指して資料の開発と活用に取り組んできたが，開発にあたって，教師は資料を読む生徒の視点からその反応を慎重に予想することが求められる。そのためには常に生徒の立場や視点から生活を見つめよりよい生き方や在り方を考えていくことが大切である。今回の研究では授業において生徒がより深い価値把握をする過程や道徳的実践力が高まる過程で自己との対話が有効に行われ，授業のねらいである集団の役割と責任，協力の態度を育てることがより達成されたと考えられる。

（２）　課題

生徒がより深く価値把握をする過程で資料中の主人公の考えや行動，授業中の話し合いを変容要因とすることが多い。そこで資料中のどの場面の出来事や授業中のどの場面の話し合いが価値の変容に直接かかわったかを研究し，より自己との対話が豊かにできる道徳授業の自作資料の開発と活用に役立てていきたい。

【授業研究　１２】

中学校第３学年「家族愛　４－（５）」における道徳資料の開発と活用の仕方

玉造町立玉造中学校　教諭　古渡　俊明

１　資料開発にあたって

（１）題材の選定

中学生の時期は一般に，自我に目覚め大人の言うことが疎ましくなり，ややもすれば家族との触れ合いすら嫌うような生徒もでてくる時期である。また３年生ともなれば，進路についての悩みも重なり，なおさら家族と疎遠になる生徒も少なくない。

このような時期だからこそ家族との普段の語らいや，何気ないやりとりの中にある幸福に目を向け，家族を敬い大事にしていこうとする心情を育てたいと考えた。

そこで，今回は，生徒にとって身近な存在である担任教師の体験をもとに自作資料を作成し，自分と家族との関係にあらためて目を向けさせ，考えさせる時間をとることを目的とするとともに，資料については，自己との対話をより深めやすい資料となるよう心がけた。

（２）素材の収集

自分の体験の中で，道徳の資料として，インパクトの強いものは何かを考えた。

そこで，私の父が事故に遭ってから，１年３カ月の間のできごとを資料としてまとめることにした。その時の家族の気持ちに迫ることで，家族愛についての価値が深まるのではないかと考えられたからである。

父が事故にあって間もなくの頃のことや，二度と自分の力では歩けないと医者から宣告されたときのことなど，いくつかの場面を考えたが，今回は父の入院中に祖母が亡くなるという，自分にとって最もつらい時期のできごとを題材にしようと考えた。この時期は確かにつらい時期ではあったのだが，そんな時期だけに，家族としてバラバラになりながらも，それぞれが，自分と家族を最も大切にしていた時期のように思えたからである。

資料の内容は，生徒たちの日常とはかけ離れた内容ではあるが，事実にもとづく話であり感じる部分は少なからずあると思われる。状況を正しく理解し，主人公である私や，父の心情を想像することで，家族を敬い大事にしていこうとする心情が育つのではないかと考えた

（３）文章化

父の事故当初から文章化すると，資料としてはだいぶ長いものになってしまうので，父の事故と怪我については，最初に簡単に説明し，祖母の発病から入院，そして死までを事実通りに書き，あとは，父の退院のようすを書くことで，わが家にまがりなりにも平穏が訪れたところで文章を終わりにした。なお，文章化に際しては，詳しすぎる説明は，かえって理解を妨げると考え，事実に基づきながら，簡潔な表現で，自己との対話のしやすい含みのある文章を心がけた。

2　授業の実践

(1)　資料の分析表

学年	3	主題名	家族愛　　4－（5）	資料名	父と祖母と・・	出典	自作資料
ねらい	父母，祖父母に敬愛の念を深め；家族の一員として自覚を持って充実した家庭生活を築こうとする心情を育てる。			事前指導の工夫	9月の学級活動で「青年期の悩み」について 話し合い，家族の問題についても話し合った。		
評価の工夫	事前に家族に対する日頃の考えを書いてもらい授業後，感想を書いてもらうことにより、道徳的意識の変容を評価する。			事後指導の工夫	日常生活の中で，機会に応じて「家族愛」について考えさせる。		
補助資料等	〔導入〕		〔展開〕		〔終末〕教師の体験談をまとめておく		

話のすじ 資料に含まれる価値	価値に迫る人物の言動と心の動き 中心人物の言動と心の動き	関連人物の言動心の動き	・基本発問 ◎中心発問	予想される反応
1　祖母が倒れた頃の状況説明 入院当日の様子 入院の準備がすみ，談笑の後 （家族愛４－(5)）	「こんなとこ早くでっぺよなあ・・」と言ったつもりであったが　・・・・	叔父「母ちゃん，じゃ，帰っから。」 祖母「みんな，帰っちまうのかあ・・」	・祖母の言葉を聞いたときの私はどんな気持ちだっただろうか。	・祖母がかわいそうだ。 ・こんなとこで一人じゃさびしいだろう。 ・父にも会っていないのに・ ・もしかしたらこのまま・・
2　祖母の死 知らせを受け，病院へ急行するが，すでに意識はなく・・ （家族愛，生命尊重） （４－(5)　　３－(2)）	私一人で祖母を送った。		・一人で祖母の死をみとどけた私の気持ちはどんなだっただろうか	・こんな不幸な事があってもいいのか。 ・父母にはなんと言えば・・ ・ごめんな，ばあちゃん。 ・父ちゃんにもあってないのに。
3　回想 父に会いたがっていた祖母，しかし，会わせないでしまった （家族愛４－(5)）	この言葉は長く私を苦しめた。	祖母「父ちゃんにとうとう会わねんちゃったなあ・・」	・祖母の死後、この言葉を思い出すたびどんな気持ちになったのだろう。	・ばあちゃんにすまないことをした。 ・会わせたほうが良かったのか。
4　病院 父母へ祖母の死を報告 ３人で泣いた。 （家族愛，生命尊重） （４－(5)　　３－(2)）	黙ってうなずいた。	父　「そうかあ，いっちまったのかあ・・・」口をへの字に結んで目を閉じた。	・いっちまったのかと聞かれたときの私の気持ちはどんなだったのだろう。 ◎口をへの字に結んで目を閉じたときの父の気持ちはどんなだったのだろう。	・何と言っていいのか分からない。 ・自分にもどうしようもなかった。 ・自分が丈夫なら・・・ ・おまえも苦労したなあ。 ・母にすまないと心の中でわびていた。
5　父退院 車椅子ごと家の中へあがる 6　３本の煙のすじ １年３カ月ぶりの父の退院であった。 （家族愛４－(5)）	ろうそくに火を付け父の代わりに線香をあげた。	父「やっと帰れたなあ・・」 「俺の代わりに線香あげてくれやあ・・」	・このときの父はどんなことを考えていたのだろう。	・祖母や祖父へまがりなりにも帰れたことを報告したい。 ・祖母へ誤りたっかった。 ・我が家へ帰ってきた懐かしい気持ち。 ・こんな姿になってしまった自分だが，生きて戻ってきたことの喜びをかみしめている

（２）指導案
展開

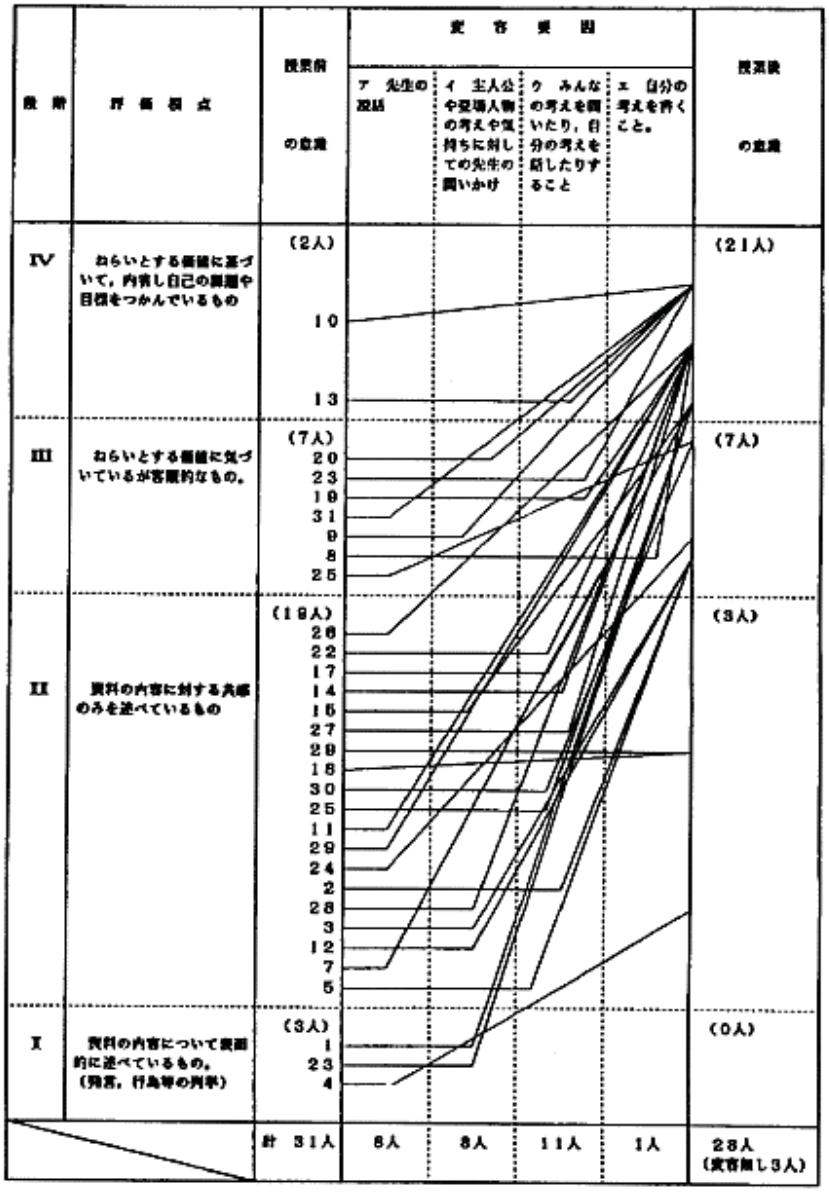
主な活動と発問	予想される生徒の反応	支援・留意事項・評価
1　家族が疎ましいと感じる時，いて良かったと感じる時について話し合う。	◇疎ましいと感じるとき ・　叱られたとき ・　家族と喧嘩をしたとき ◇いてよかったと感じるとき ・　自分に協力してくれたとき	○　様々な場面が出てくると思うが，それぞれ受容的態度で意見を聞くようにする ○発言で，言葉の足りないところは，教師側で補足する。 ○　ねらいとする価値へ方向付けをする。
2　資料「父と祖母と・・」を読んで話し合う。		
○「みんな，帰っちまうのかあ・・」という祖母の一言を聞いたときの私はどんな気持ちだったのだろうか。	・　祖母がかわいそうだ。 ・　こんなところに一人で残していくのはかわいそうだ ・　もしこのまま死んでしまったら・・・・ ・　体が不自由なのに，さびしい想いまでさせたくない	○　自分の運命を悟ったような言葉をいっていたこと，父に会わずにこのようなところへ入院させてしまったことなどを確認の上で「私」の気持ちを考えさせたい
◎「父は，口をへの字結んで目を閉じた」とあるが，この時の父の気持ちは，どんなだっただろうか。	・　祖母がかわいそうだが，仕方がなかった。 ・　自分が丈夫でいれば，家族にこんな想いをさせずにすんだかもしれない。情けない。 ・　おばあさんもきっと心残りだったろうなあ。 ・　親不孝なことをした。	○　病院で動けないでいることを確認した上で父の気持ちを考えさせたい。
○「俺の代わりに・・」といったときの父の気持ちはどんなだったのだろう。	・　留守中に亡くなった祖母や先祖へ帰ってきたことを伝えたかった。 ・　祖母の死に目に会えなかったことをわびていた。	○　祖母の死から半年後の退院であること車椅子での帰宅であること等を確認の上で考えさせたい。 ※　一般化と呼ばれる段階を特に設けず，展開全体で一般化を図る。
3　教師の説話を聞く。		○　余韻の残るようにする。 評　授業の前後に意識調査を行い評価する

（3）　授業分析

ア　感想内容の比較とアンケート調査

○　家族への意識の変容をみると，３名の生徒からは変容がないと読みとれたが，その他の生徒については，授業後，家族をもっと大切にしたいとか，感謝の気持ちを持とうといったⅣやⅢのレベルに意識が変容している。内容が，実話であることもあり，感動した者，真剣に考えさせられた生徒も多数みられた。

○　変容要因について，最も多かったのは，発問に対してみんなの考えを聞いたり，自分の考えを話すときであった。自分なりの意見を考え，まとめていく段階で他の意見と比較し感化し合うなどして，多くの生徒が，自己との対話を深めていったと解釈できる。



（「授業前の意識」の数字1～34は生徒を示すが，出席番号ではない。）

図１　授業前と授業後における道徳意識の変容とその要因

（授業前　平．8．10．17　授業後　平．8．10．18　実施　3年1組　34人）

イ　生徒の自己評価からみる変容

授業前と授業後にねらいとする価値に関する意識を調査するために，右下のようなアンケートを実施した。

アンケートの結果をまとめると次に示す図のようになった。

○印：事前の調査結果

☆印：事後の調査結果

授業前・授業後の意識調査

Ｑ１　家族に対して普段，どのような気持ちでいますか。
　１　小言とかがうるさいのでいやだ。
　２　うるさいとか，いやだと思うことの方が多い。
　３　とくには何も感じない。
　４　時々，うるさいと思うこともあるが，自分の家族が好きだと感じるときのほうが多い。
　５　自分の家族が好きだ。

Ｑ２　自分の家族に対して，どのような態度で接していますか。また，どのような態度で接しようと思っていますか。
　１　無視している。
　２　なるべくかかわらないようにしている。
　３　ふつうに応対している。
　４　感謝している
　５　家族を大切にし，協力している。

図を見ると，全体的に右斜め上方にスライドしている。すなわち，家族に対する気持ち（図では敬愛度と表示），家族への接し方や態度（図では意欲と表示）とも変えようという意識を持った生徒が多かったことがうかがえる。特に意欲の変容した生徒が多い。

このことは，内容が自分達の体験からかけ離れたものであったにもかかわらず，自己との対話が十分にでき，かつ普段の家族への対応を反省し，家族を大切にしようとする心情を育てるのに十分な資料であったと評価できる。

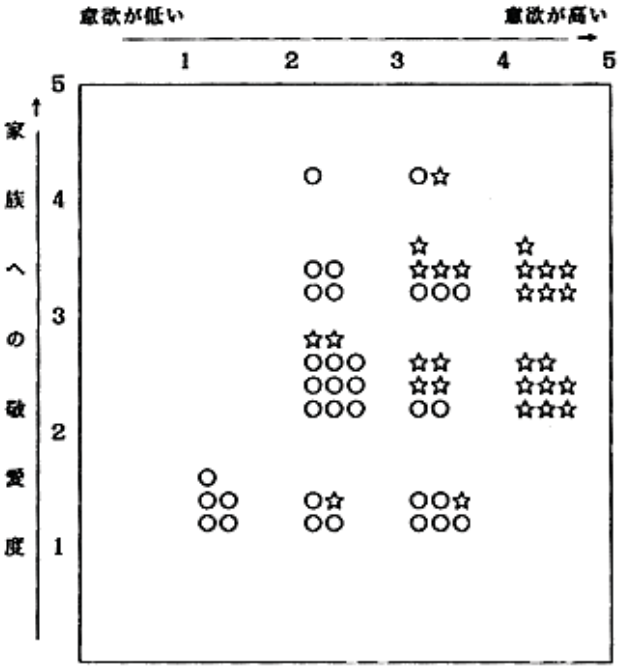


図２　家族愛に関する学級全体の変容

（授業前 平. 8. 10. 17 授業後 平. 8. 10. 18 実施　3年1組 34人）

ウ　生徒による資料評価

右のような評価を授業終了後行い，各自線で結ばせたところ，項目の右のような人数がそれぞれの項目を選んだ。

最も多かった人数の項目を結ぶと「心に残ったのでためになった。」となり，資料作成の目的はほぼ達成されたとみて良いと考えられる。

表１　資料内容に対する生徒の感想（平. 8. 10. 18 実施　3年1組 34人）

道徳の授業を終えて

これは，テストではありません。思っているとおりに書いてください。
道徳の授業が終わって，今感じている通りに線を引いてください。

ア	資料の内容が

ア	よくわかったので	2
イ	わかりにくかったので	0
ウ	身近なものだったので	2
エ	身近でなかったので	3
オ	当たり前のことだったので	0
カ	意外だったので	7
キ	おもしろかったので	0
ク	つまらなかったので	0
ケ	やさしかったので	0
コ	難しかったので	0
サ	心に残ったので	14

ア	やる気がおきた	3
イ	やる気がおきなかった	0
ウ	満足した	8
エ	不満足だった	0
オ	楽しかった	1
カ	つまらなかった	1
キ	もっと話し合いたい	1
ク	ためになった	20
ケ	ためにならなかった	0

3　成果と課題

（1）　成　果

○　今回のこの自作資料を使っての授業では，多くの生徒が真剣に授業に参加し，また共感的に主人公や，その家族を理解していたことが上の授業分析からもうかがえる。ある男子生徒は感想の中で，「道徳の授業をやってきた中で一番よかったというかじーんときた。」と書いていた。自分の体験談であるだけに，授業もやりづらかったのだが，多くの生徒が感銘を受けたと感想に書いており，資料作成の目標であった自己との対話が充実したのではないかと自負している。

（2）　課　題

○　資料を作成した段階で，いくつかの発問を考えたが，発問の対称を「私」から「父」へ途中で変えてしまった。このことが生徒の思考を多少戸惑わせてしまい，中心発問での自己との対話が不十分に感じた。さらに工夫を加えたい。